

広域連携SDGsモデル事業

自律的好循環とローカルSDGs推進のための コンソーシアム構築事業

佐賀県鹿島市



佐賀県太良町



広域連携SDGsモデル事業 地域概要



本事業目標

地域で環境・社会・経済の課題を同時解決し、自然環境を維持・回復していくローカルSDGsを実現する。

共通点

- ◆ 両市町とも有明海及び多良岳を有し森里川海干潟に囲まれた地域で、豊富な自然資源から生み出される第一次産業が基幹産業である。

鹿島市特徴

- ◆ 地域循環共生圏の取組で「ローカルSDGs」を推進。令和5年SDGs未来都市となる。ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」を有する。

太良町特徴

- ◆ 林業・水産業のブランディングに取り組み、特に町有林の「200年の森」を目指す森林管理は、他市町のモデルとなっている。

連携の意義

- ◆ 有明海・多良岳という共通の自然環境を持ちながら、違う特徴を持つ市町が連携することで、それぞれが持つ強みが生かされ、更なる相乗効果を生み出す。

モデル事業で目指すもの

様々な主体が協力し合い、豊かな自然資源を持続可能な形で活用することで、経済・社会への好循環を生み出し、自然環境を維持・回復していくローカルSDGsを実現する。



太良町「森林保全」



鹿島市「有明海保全」

鹿島市と太良町・地元企業の
新たな繋がり

かしたらコンソーシアム（仮）

事業の実装

企業・自治体の新たな繋がりをサポート



パートナーズ（企業）

- ・自治体と共同で行う環境保全活動
- ・地域資源を活用した商品ブランドの共創
- ・新規事業の実証・社会実験を実施

本事業にて達成すべきこと

◆両市町の産業構造の維持

就労者の減少を視野に入れた発展のための施策構築
連携して課題を解決していく体制の構築

◆気候危機による災害の増加を防ぐ環境保全

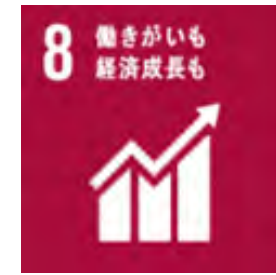
干潟・森林保全、グリーンインフラ・Eco-DRRの実装、再生可能エネルギー導入に向けた適地選定

◆第一次産業の競争力強化

基幹産業である水産業の集約化によるコスト削減、
CO2削減
DXの活用による担い手不足解消

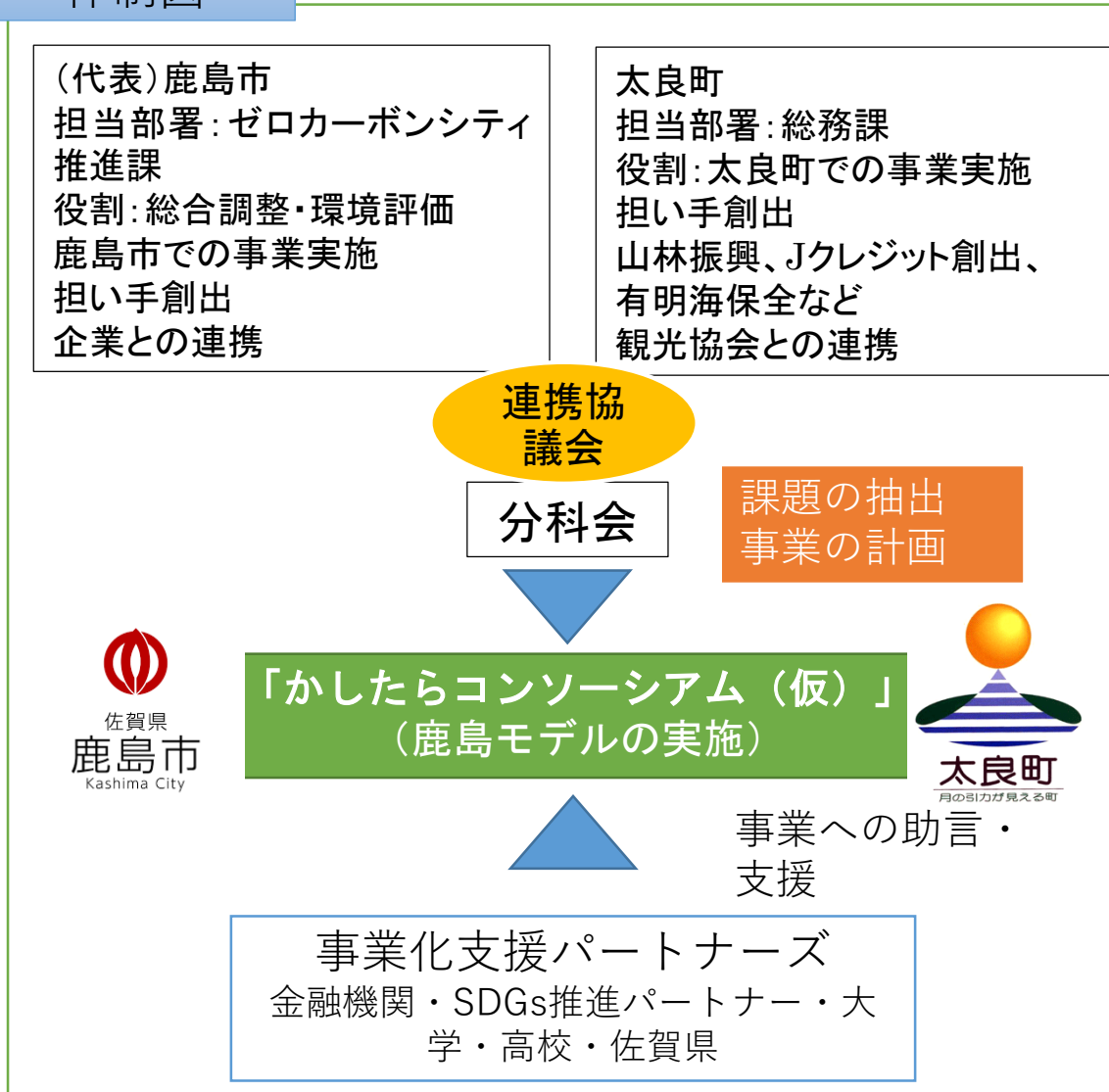
◆脱炭素に資する事業の取組

カーボンオフセット事業展開、共同での廃棄物リサイクル



広域連携SDGsモデル事業の概要 実施体制

体制図



実施事項概要

- ◆ 鹿島市・太良町で連携協議会と分科会を立ち上げ、民間企業と連携しながら事業を実施する。事業化支援および環境評価は、「鹿島モデル」を元として本事業でブラッシュアップを行なった仕組みを「かしたらコンソーシアム（仮）」にて活用する。これにより環境・社会・経済への効果を明確化した事業の実現を果たす。

コンソーシアムが有する機能

- ◆ 自律的好循環とローカルSDGsのための産業集約の実現
- ◆ 地域の魅力発信

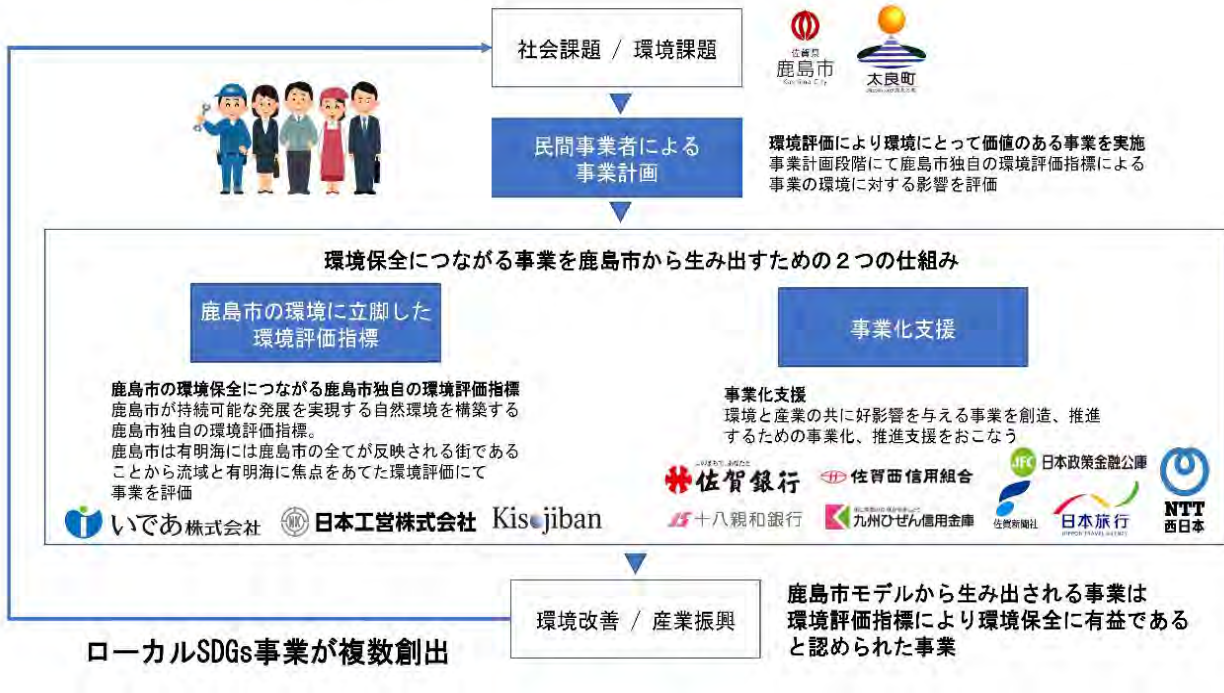
支援体制

- ◆ 外部組織として「事業化支援パートナーズ」を設置し、地域連携により強靱な地域づくりを行うための幅広い議論をおこなう。専門家からなるこの組織は、事業に対する助言・支援を行う。

環境評価支援	いであ・日本工営
事業化支援	地域金融機関5行 (佐賀銀行・十八親和銀行・ひぜん信用金庫・佐賀西信用組合・日本政策金融公庫)
事業実施	肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー

鹿島モデル

鹿島市の環境保全につながる事業を生み出し鹿島市の環境と産業を元気にする。
環境と産業の調和から有明海の再生を目指す。



ロジックモデル



◆事業化支援と市独自の環境評価により、環境に資する事業を生み出し続ける仕組み

図 鹿島市が目指す姿とそれに繋がる取組（検討中の一次案）これを広域用に作り直し、目指す姿を共有する

広域連携 S D G s モデル事業の効果 コンソーシアムから環境に資する事業の創出

経済⇔環境にかかる事業

DXを活用した脱炭素の取組

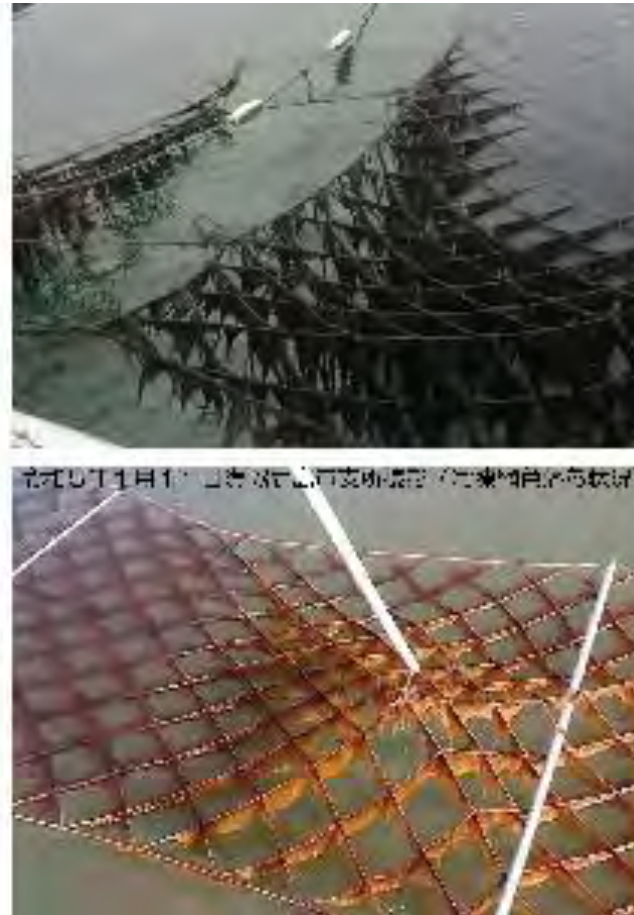
- ドローンやLEDを活用した水産業の水揚げ量を増やす施策の試行（右図）
- 森林の環境保全から稼ぐ仕組みづくり Jクレジットの導入

期待される効果

- コスト削減・脱炭素
- 域内でのカーボンオフセット事業の展開

KPI

- 水産業のエネルギーコスト削減（現在から20%減）
- 太良町有林クレジットの販売量（0 t -CO₂⇒500 t -CO₂）



ドローンを活用した赤潮発生予兆による海苔の色落ちの対策

これまでの工程

不定期に沖合に出て赤潮を確認



赤潮が出た場合、海苔網を上げるなどの対策を講じる



海苔の水揚げ量の現状維持

- ★ドローンやAIを活用し、赤潮発生予測⇒コスト削減・脱炭素
- ★海苔の水揚げ量の増加

広域連携SDGsモデル事業の効果 コンソーシアムから環境に資する事業の創出

経済⇔社会 にかか事業

観光振興の取組

- 道の駅連携による観光・広域流通の確立
⇒ 6次産品の生産、ツアーの造成
- 大手出版社と連携した地方創生の取組
⇒ 若い世代をターゲットとした観光ブランディング

期待される効果

- 交流人口・関係人口の増加
- ふるさと納税の増加

KPI

- 道の駅連携で販売を行う6次産品の新規開発数
(10種⇒20種)
- 両市町の観光協会のHPへのアクセス数



カモの食害で活用したLEDを使った道の駅連携での
ナイトツアーの開催
⇒食害の負のイメージをプラスに

広域連携 S D G s モデル事業の効果 コンソーシアムから環境に資する事業の創出

環境⇄社会 にかかる事業

廃棄物のリサイクル

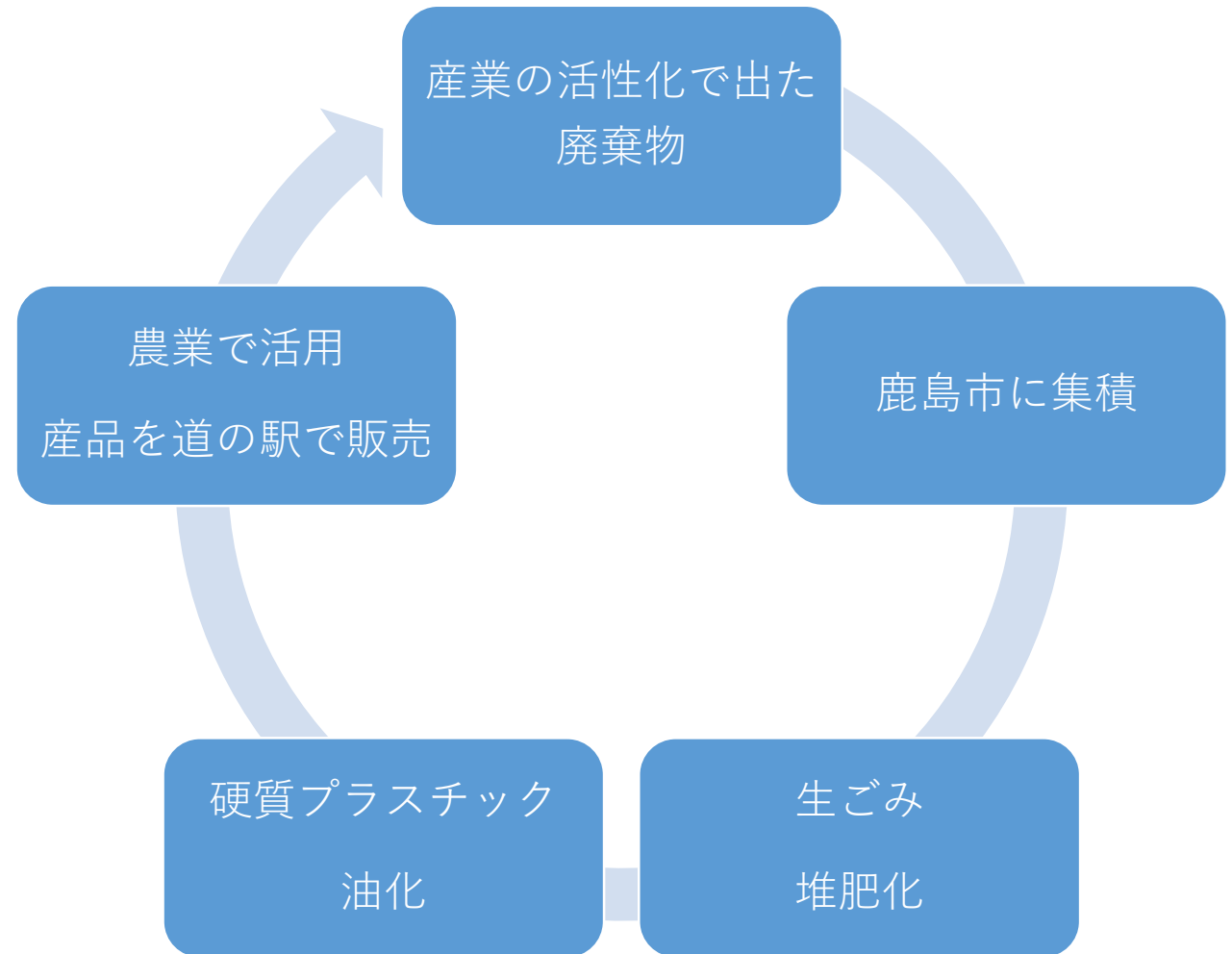
- 広域的なりサイクルの実施
- 生ごみ堆肥化

期待される効果

- 事業者・市民・町民の行動変容
- ごみの減量によるコスト削減・CO2削減

KPI

- 生ごみ堆肥化の数量
- 硬質プラスチックリサイクルの量



広域連携SDGsモデル事業の効果 コンソーシアムから環境に資する事業の創出

実施内容

経済⇔社会 にかかる事業

事業者へのSDGsの普及啓発

- SDGs取組診断・分析・評価
- ワークショップや講演会の開催

期待される効果

- SDGsの定着
- SDGsに取組事業者の増加

KPI

- SDGsパートナー企業の増加
(85団体⇒100団体)
- 今回のモデルで生まれたローカルSDGsの件数
(0件⇒10件)

経済⇔環境 にかかる事業

市民と連携した事業の取組

- ゼロカーボンアクションの実施
- 地域課題を考える中高生とのワークショップの開催

期待される効果

- 市民・町民の行動変容
- 地方創生への若い世代の参画

KPI

- ゼロカーボンアクションでのCO2削減量
- ワークショップへの参加校数

環境⇔社会 にかかる事業

生物多様性と脱炭素の両面からの取組

- ランドスケープアプローチによる保全区域と再エネ導入の適地選定

期待される効果

- 生物多様性保全
- 地域のレジリエンスの向上
- 景観の維持

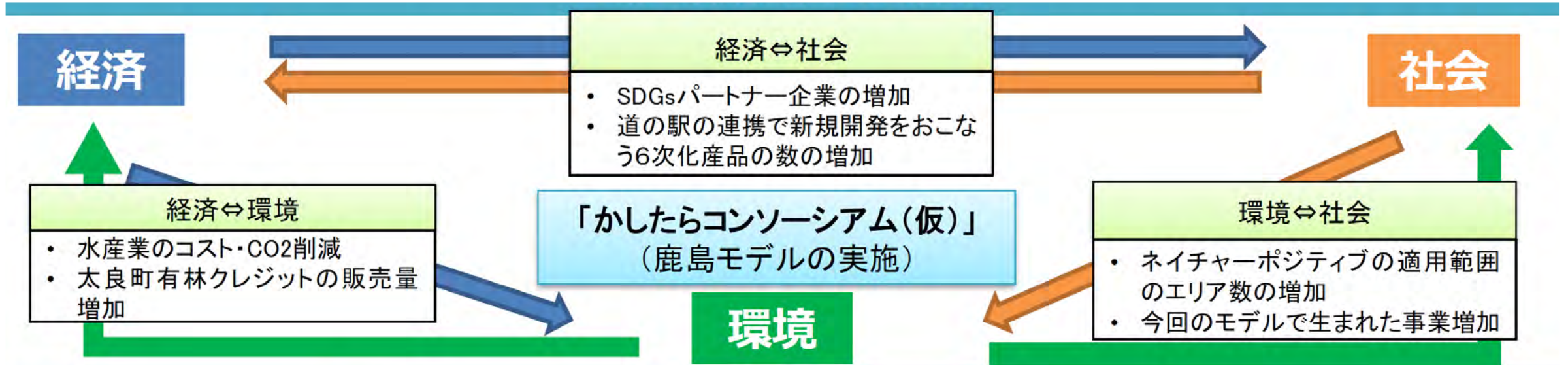
KPI

- ネイチャーポジティブの適用範囲のエリア数
(0エリア⇒8エリア)

経済・社会・環境の各側面の相乗効果

【経済⇔社会】SDGsパートナー企業の増加（100団体）・6次化産品の数（20種）

本事業において、鹿島市-太良町にてどれだけの企業を巻き込めて、事業が生まれたかを指標とする。また同市が持つ「ラムサールブランド認証品制度」を活用し、道の駅連携で地域産品をブランディングし、売り上げの一部が有明海や多良岳の環境保全に寄付されるようにする。この進捗管理を6次化産品の数で行う。



【経済⇔環境】水産業のエネルギーコスト削減（20%減）

太良町有林クレジットの販売量(t-CO2)500t-CO2
産業集約化とサプライチェーンの見直しによるエネルギーコスト削減と、太良町の森林活用による脱炭素への貢献を図る。

【環境⇔社会】ネイチャーポジティブの適用範囲（8エリア）

モデルから生まれた事業増加（10件）
ローカルSDGsの推進は地域の自然資源の活用からなるものであるため、ネイチャーポジティブのエリアと環境に資する事業の増加数を指標として設定し、進捗管理を行う。

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

行政

②自然資源を活用した社会課題の解決
(ローカルSDGsの推進)

自然から地域への恵みが維持され回復する

事業者

③産業振興

市民・町民

④市民・町民一人ひとりの行動変容
(環境保全事業参加・地産地消)

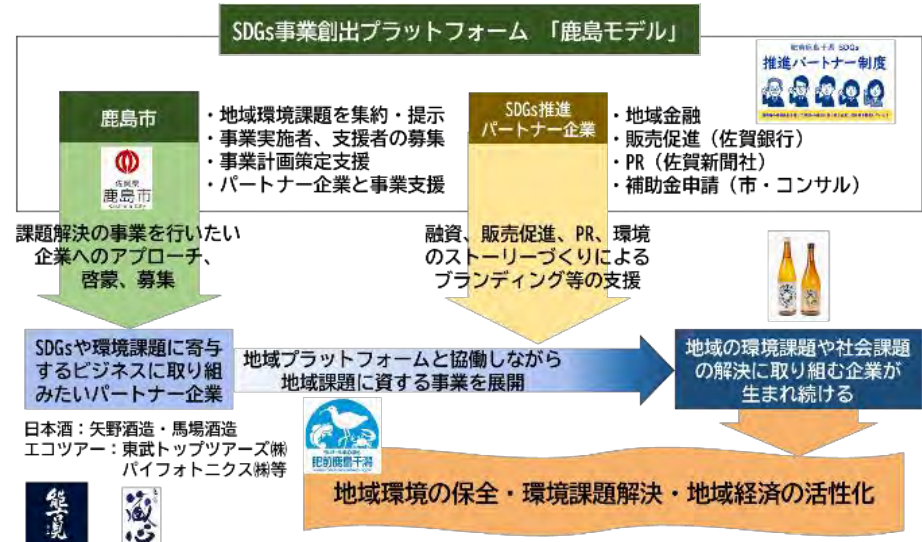
取組みを支える基盤
(かしたらコンソーシアム(仮))

①生態系の健全性の回復
(有明海・多良岳)

地域住民の安全の確保

社会が自然資本を守り活かす

コンソーシアムを支える鹿島モデルと事業化支援パートナーズ



環境省、佐賀県、県内10自治体、佐賀銀行から作られる「SAGA ネット・ゼロコンソーシアム」